



豊富な臨床経験が紡ぐ トラブル防止のアドバイス

評者 | 五十嵐 隆 国立成育医療研究センター理事長

コミュニケーション能力が低下している人が増えている。わが国の社会全般で人間関係が希薄になっていることやIT機器が進歩し利用が進んでいることが主な原因とされているが、理由は定かではない。「小児医療」の現場においてもそのような傾向がみられており、その結果として医師や看護師と患者や保護者との間の理解が得られず、しばしばトラブルの原因となっている。

今回、日頃から私が尊敬する崎山小児科の崎山弘院長と東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科の長谷川行洋部長の編集・執筆による『保護者が納得！小児科外来 匠の伝え方』が上梓されたことを大変喜ばしく思う。若手小児科医を指導されているお2人が、日常診療の現場で医療提供者側から患者や保護者に病名・治療方針・治療計画などがうまく伝わっていないケースに出合う機会が少なくないと実感されていることが、本書を編集・執筆された動機になったと推察する。

具体的・実用的な“匠”ならではのユニークな1冊

本書の目的は、小児医療の現場で働く医師や看護師が「適切に相手に伝えることができる表現力を身につけること」である（「まえがき」より）。第1章では、診療を始める前に必要な心構えとして、患者や保護者への説明が適切に行われるために、「見る・聞く・考える・話す・確認する」という総合的技術が重要であることが強調されている。第2章では、小児の診療現場でよくある状況を題材とし、説明する内容の要点、説明の際に使ってはいけない表現（禁句）、保護者と子どもへの伝え方の具体例があげられている。その記述は、どれも丁寧で具体的であり、とても理解しやすい。米国小児科学会（American Academy of Pediatrics）が出版している『Bright Futures ; Guidelines for Health Supervision of Infants, Children, and Adolescents』でも、健診（health supervision）の際の具体的な質問や説明が「Sample questions」や「Anticipatory guidance」としてあげられている。本書にも『Bright Futures』と同様の編集意図が感じられ、その結果として読者の理解を深める実用的な書籍となった。

編集・執筆にあたられたお2人以外に本書の執筆に当たられた17名の先生方は、いずれも現在第一線でご活躍中の臨床経験豊富な小児科（専門）医で、どの章の記載も深い経験と洞察力にあふれており、納得する事項が多い。また、COLUMNでは“匠”ならではの経験から絞り出された有益なアドバイスが披露されており、どれも味わい深い。

これまでこのような観点に立って執筆された小児医療関係の書籍はなく、その意味で本書は極めてユニークな本である。今後、小児科のサブスペシャリティの診療科や小児外科においても同様の書籍が出てくると、小児医療に携わる者に大きな助けになると思う。ぜひ、多くの小児科医や看護師が本書を一読されることを願っている。



《ジェネラリスト BOOKS》 保護者が納得！ 小児科外来 匠の伝え方

崎山 弘、長谷川行洋＝編

定価：本体 3,800 円＋税
A5 判・228 頁／医学書院／2017
[ISBN978-4-260-03009-0]